

春を待つ植物たち

遠藤 登志子（千葉市）

日 時：2016年2月7日（日）10：30～12：00 天候：晴れ

参加者：大人7名 子ども3名

担当指導員：岡田敬子 遠藤登志子

男の子がハラビロカマキリの卵のうを発見し、続いて男性の参加者がオオカマキリの卵のうを見つけたので、皆が集まって観察する元気なスタートとなりました。先ず、ロゼットについて話した後、地面と地上から1mほどの所に設置しておいた2つの温度計で気温差を見ると、10℃近くも地面の方が温かく、日射の力がわかりました。次に ヒメコウゾとクワの小さい冬芽を虫メガネで観察し、続いて常緑樹のシラカシを観察すると 葉が茂っていて目立たないけど、冬芽がしっかりあります。これに対して落葉樹のイヌシデはたくさんの冬芽がついていて、スマートなものと丸っこい2種類があることもわかりました。林内に入ると、鳥の声が響きました。そこそこにあるマンリョウやアオキなどの赤い実も鳥の食べ物だと話すと、子どもたちは、赤い実探しを楽しんでいました。

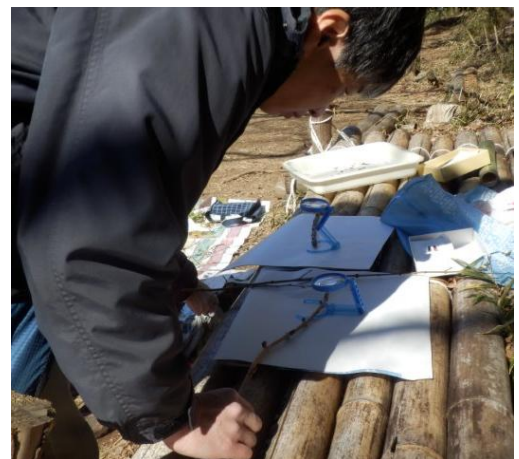
林を抜け、茎の枯れたイノコズチの根元を少し掘って土の中の根を見ると、小さな白い芽が育っていました。湧水近くの田んぼでアカガエルの卵塊が2つあり、しばらく写真を見ながらアカガエルの話をして、陽だまりに移り、用意した冬芽・葉痕やロゼットの観察をしました。

葉痕は、サンショウやオニグルミ・クズ・フジなど、冬芽はアジサイ・ニワトコ・コブシなど。コブシはカッターで切り、内の葉になるところと花になるところが見られました。

ロゼットは、オオアレチノギクとヒメムカシヨモギの地上部は似ていても、根の部分はつくりには違いがあることも観察しました。ハルジオン・ヒメジョオンやアザミの根なども見ました。今日のおまけは、オオカモメヅルの袋果。きれいに開いた袋果が3つもあり、まさに カモメが飛んでいる姿でした。子どもたちのおまけは、フジのおはじきのような黒い種集めや田に流れる鉄分を含んだ赤い水の発見、モグラ塚でした。

感想として、大人：①いろいろな春の準備を知った、②葉痕の顔がおもしろかった、③親の方が楽しんだ、④思ったより春が早く来ている。

子ども：①アカガエルの卵が一番だった。



簡易顕微鏡でオニグルミの葉痕を見る



オオカモメヅル

毛付の種がまだ入っており、吹くと飛び立った